

## 第5回枚方市産業振興対策審議会の論点整理(審議会後意見)

No.	委員による質問・意見	整理・集約の方向
1	地域活性化支援センターのビジョンに「中間支援組織」としての役割を含めるべきである。	<p>(事務局) 地域活性化支援センターは、「多くの方の知見を活用できるコミュニティ型の創業支援施設」を目指しており、ステークホルダー間（創業者・企業・行政等）のギャップを埋め、協働を円滑に進める主体（中間支援組織）としての役割も担っていくものであり、ビジョンに盛り込んでいく。</p> <p>(若井委員長) 創業（準備）は、社会・経済における潜在的需要を背景に、未来志向で発想され、実現化されていく、新規事業である。そのため、創業そのものの理解や支援などの不足が伴うことが多い。地域活性化支援センターは、創業の実現化を促進する触媒的機能、つまり多くの方の経験や体験と、創業意欲の高い当事者とを結びつける、中間的役割を果たすことが大切である。</p>
2	地域活性化支援センターには、人の繋がりや波紋を広げていくための仕組みづくりとして、コミュニティをコーディネートする核となる人材が必要である。	<p>(事務局) コミュニティの核となる「担い手」は、様々なネットワークへ仕掛けづくりを行うことができ、まわりを巻き込んで協働への関与を促していく中間支援を担える人材であると考えている。</p> <p>(若井委員長) 創業（準備）の実現の可否は、多様な人材からなるコミュニティの構成が重要になる。しかも創業の意図や目的を十分に理解し、さまざまな助言や方法などを集約しながら、実現へけん引するプロセスが求められる。それには、中心的役割を担え、柔軟に対応しうる人材が必要である。</p>